

	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	21年・3定 予算特別委員会 10月6日	質 問 者	釣部 勲 委員 自民党・道民会議 (空知支庁)
質 疑 ・ 質 問	答 弁		担 当 課	
<p>一 公立高等学校配置計画について (一) 閉校した学校数について 久方ぶりの質問ですので、多少胸がどきどき、膝頭がガクガクしております。皆さんには見えないでしょうけれども、緊張感を覚えながら質問させていただきたいと思うわけがあります。 先ほど北口議員からも質問がございました。内容について重複する部分もございますが、併せてまた質問をさせていただきたいと思うわけがございます。 ここ数年の間 私は、こういう質問をする機会が本当に全くなくて、通告をいたしました件については、私の選挙区内において、かなりの学校が閉校になったわけでありました。そのたびに私は、機会が得られずと言ったら恐縮ですが、役職が役職でございまして、質問に立つ機会がなかったわけで、同僚の議員あるいは各会派の議員の皆さんの質問を聞きながら、まことに残念だな、あるいはもう少し突っ込んだら良かったんじゃないかなと、そういうことを思いながら、今日に至りましてやっと質問をすることができるわけで、かなりの時間を要するようなこととなりますのでご辛抱願いたいと思うわけであります。 それでは、質問に入りますけれども、道教委は、9月14日だと記憶しておりますが、教育委員会を開催いたしまして、平成22年度から24年度の道立高校再編策などを示しました、公立高等学校配置計画を正式に決定をしたところだと承知しております。以下、通告いたしましたように公立高等学校のあり方などについて、数点、お承りをして参りたいと存じます。 統計的に見て参りますと、ご承知のように北海道の人口は平成9年をピークといたしまして、その後は減少傾向を継続しております、加えて少子高齢化が、全国平均を上回るスピードで急激な進行を見せていることはご承知のとおりでございます。 また、札幌市への一極集中化が益々顕著となっております、地方における市街地の空洞化、そして第1次産業を基盤とする自治体では、担い手不足が深刻化しているというような現状にあるわけであります。 そのような中で、本道の子どものたちの高校進学率は90%を超えておりました、全国平均よりも高い水準にあるというふうに認識しているところでございます。道教委が作成した「公立高等学校配置計画」によりまして、本道の中学校卒業見込み者は平成22年に5万1、465人、平成23年は4万8、761人と減少することが見込まれているところであり、その後におきましても、総じて減少傾向にあることが示されているのであります。 この計画は、平成19年度分までは「公立高等学校適正配置計画」という名称であったことから、これを略しまして「適配」と呼ばれておりましたけれども、このあと伺って申し上げますように、過疎地の実態は、この計画によって進められて参りました高校配置が、地域の理解と納得が得られる適配、つまり本当に適正な配置であったかとなると、私は大いに疑問であると思っております。 経過を振り返って見ますと、平成19年度の適正配置計画で、募集停止あるいは学校統合の対象となりましたのは7学級と、過去5年間で最も少なかったものと承知をしているところであります。しかしながら平成20年度からは、いわゆる特例2間口という扱いが廃止とされました。地方に存在する小規模校の統合が、一段と加速し始めたのであります。 私は、この時点から自治体の枠を超えたいわゆる新たな段階に入ったものと、つまり過疎地の高校の切り捨てが始まったものと指摘されましても、道教委の皆さんは、否定できないものだと考えるも</p>	<p>(参事(高校配置)) 閉校した学校数についてでございますが、北海道の中学校卒業者数は、昭和63年には92,222人でありましたものが、平成3年には90,000人を切り、さらに今年は、50,537人となり、平成3年と比べ35,372人が減少し、41%の減少率となっているところでございます。 こうした中、公立高校も減少いたしまして、平成3年度以降、今年度を含め、閉校となる学校は、市町村立高校7校、道立高校24校のあわせて31校となっております。その結果、平成3年度には、274校あったものが、途中、2校の新設があったものの、245校となるところでございます。 また、空知管内の状況を見ますと、平成3年の中学校卒業生数は5,988人でありましたのが、今年は、3,120人となり、平成3年と比べ2,868人、全道の41%を上回る48%の減少率となっております。今年度までの閉校数は11校となるところでございます。</p>		<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>	

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>のであります。平成20年度以降の再編につきましては、「新たな高校教育に関する指針」を基準として、市町村の教育関係者や住民の意見を聞く会を開催した時点で、次年度の第1学年が3学級以下と見込まれる学校を、原則として再編の対象とするという方針を打ち出したものと理解しております。</p> <p>そこでお伺いをいたします。私が道議会議員になったのは、平成3年でございます。平成3年度以降今年度まで、全道で閉校になった高校は何校あるのか、お伺い致します。</p> <p>(指摘)</p> <p>減少率をいろいろ数字でお聞きしましたが、私の選挙区である空知管内ももとより、ご承知のように最大時約9万の人口を要したところでございますが、現在も4万を割り3万数千人と言うような状況の中で、この数字は理解はするものであります。しかしながらこの間、少し知恵が足りなかったのではないかとだけは指摘させていただきます。</p> <p>(二) 地域別検討協議会について</p> <p>次に、地域別の検討協議会についてお伺いをさせていただきます。</p> <p>配置計画につきまして、学級削減や再編の考え方をただしますと、担当の方からは必ずと言っていいほど「この内容に関しては地域に対しても、十分に説明をしております」と聞かされるのであります。しかしながら、果たして地域の方々は、その都度十分に納得したかとなると、これは大いに疑問であります。</p> <p>統廃合のしわ寄せは、常に過疎地に向けられて参りました。地元から高等学校が無くなってしまふ地域の住民の間には、何とも言いようのない、やり切れない思いが蔓延しまして、本当に空しさだけがそこに残されるのであります。</p> <p>毎年度の地域別検討協議会の内容が公開されていることは、承知致しておりますけれども、改めて昨年度及び今年度の検討協議会は、いくつの地域で何回開催され、出席された参加者の方々は、どのような意見が寄せられたのかお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>(指摘)</p> <p>ただ今、御答弁をいただきましたが、時間ほどの程度延べ時間にして開催されたものか私は質問の内容に入れておりませんでしたけれども、私の知りうる限りでは、時間制限がありまして、なかなか思うような意見が言えなかったという声もあったことも皆さん方に申し上げておきたいと思っております。</p> <p>さらに言いづらいことではあります、教育委員会の方々はいったん決めたことは曲げられない。ということを最初から申し上げていた。という話も聞いております。これについては、今後ないように強く指摘をこの際させていただきますと思います。</p>	<p>(参事(高校配置))</p> <p>地域別検討協議会についてでございますが、地域別検討協議会は、通学区毎に全道19会場におきまして、毎年2回開催し、市町村長をはじめ、市町村教育委員会教育長、保護者、教育関係者からご意見を伺ってきたところでございます。</p> <p>昨年度及び今年度開催した協議会における意見としましては、中学校卒業生数が引き続き減少する中で、学級減や再編について、一定程度の理解を示すご意見があった一方で、学級減や再編を受け入れがたいとする立場から、計画案の内容について再考を求めるとご意見があり、再編対象校を抱える市町村関係者からは、高校がなくなることにはずっと反対してきた。学校がなくなれば地域の将来はない。地元高校の募集停止は、大変残念であるが、地域全体のバランスをとった配置の在り方を考えていく必要があるのではないか。また、子どもが減る中で、再編で新たに学校を設けることは適切ではない。地域をよく見て、地域に必要な既存の学校を維持するという考え方に立つことが必要ではないか。と言ったご意見やまた、保護者の方々からは新設校がそれぞれの高校の特色をしっかりと受け継いだ再編をお願いしたい。協議会以外の場を設け、地域の意見を十分に聞いて欲しい。子どもや保護者への十分な配慮を求める。地域の事情に配慮した指針の見直しを求める。といったものなど様々なご意見もあったところでございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(三) 閉校に伴う財政負担の軽減について 次にですね、この閉校に伴う財政負担の軽減についてお伺いをさせていただきたいと思うわけであり ます。 道教委は財政事情が厳しいために、入学者数が少なくなれば地域の反対があってもですね統廃合せざるを得ないので、何とか御理解頂きたいと常にこういう話をするわけでありまして。それでは、お伺いをいたしますけれども、学校1校を閉校することによって、道の財政負担はどの程度軽減されることになるのでしょうか。 普通科の場合と、最近是我的選挙区の妹背牛、そして上川管内の中川の商業科も対象となっておりますので、商業科も併せてお示しをお願いします。</p> <p>(四) 人件費等について まあ、それは1校閉校することによっての財政負担の額についてお聞きをしたわけでございますけれども、次に関連のございます人件費等についてお伺いをしてからまたその答えによっては、再質問をしたいと思っております。 負担軽減される金額は、1校当たり1億5千万円から2億5千万円くらいになる。そのうち人件費が9割余りを占めて圧倒的に多いということですね。 人件費と言えば、現在、1学年1学級の高校には、教員のいわゆる加配措置が行われております。しかし、この措置は文科省の基準があって行われているものではなく、道教委が独自の措置として行っているものであります。つまり、加配された分の教職員給与費は、国から交付される分があるわけではなくて、全額を道が自前で負担しております。その金額は年間当たり、私の記憶では7億円から8億円にもなっていると聞いているところであります。 そこでお伺いをいたすわけでありまして、道立高校には期限付きを含めまして、在職している教員が何人いるのでありましようか。 また、管理職を含めまして、それら教員の年間給与額はいくらになっているのか、それは小中学校も含め、道教委が負担している教職員給与費全体の中で、どの程度の割合を占めているのか、平成3年度及び平成20年度の数字をお示し願います。</p> <p>(指摘) ただ今の答弁によりますと、数字をこう見ますと道教委が総体の予算の中でそれぞれ経費を節減しているということは理解をするわけでありましてけれども、しかしながらそこで削減をした分をトータルの予算の中で、私が議員になってからことさら新しい、その新規事業という目立ったものがないように私は記憶するわけでありまして。 本来はここで答弁をしてもらおうと思いましたが、これは新規事業というものが当然あってしかるべきだと思うし、あるいはこれから質問して参ります内容にもふれて参るわけでありましてけれども、予算の良き流用について今後検討していくべきではなからうかと思っておりますので、指摘をさせていただきます。</p>	<p>(参事(高校配置)) 一校当たりの財政負担についてでございますが、道立高校の年間運営費は、学科構成などにより差は生じますが、普通科におきましては、1間口校では、約1億4千6百万円程度であり、人件費を除いた額は、約1千7百万円程度となっているところでございます。2間口校では、約2億5百万円程度であり、人件費を除いた額は、約1千9百万円程度となっているところでございます。 また、商業学科校においては、1間口校では、約1億5千5百万円程度であり、人件費を除いた額は、約1千8百万円程度となっているところでございます。2間口校につきましては、約2億3千万円程度であり、人件費を除きました額は、約2千万円程度となっているところでございます。</p> <p>(参事(高校配置)) 人件費等についてであります。平成3年度及び平成20年度の学校基本調査における道立高校の教員数でございますが、平成3年度は10,692人でございます。平成20年度は8,715人となっております。また、道が負担する退職手当を含めた年間給与額は決算額で申し上げますと、平成3年度は1,163億円であり、全教職員の人件費に占める割合は22.2%、平成20年度は943億円であり、同じく割合は、22.1%となっているところでございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p> <p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(五) 通学対策について</p> <p>次に、先ほど北口委員の質問を聞いておりましたら、重複する面がございますから、多少割愛するところもございますが、通学対策についてお伺いをさせていただきます。地域の実態について、少しお話をさせていただきます。地域の高校が閉校されてしまえば、生徒は止むなく近隣のマチの高校へ通学せざるを得ないのは事実であります。道教委は「原則として2学級以下になれば、近隣校との再編整備を行う」として、いつもこれだけは外せないという強い姿勢で臨んでおりますけれども、近隣校が近い距離にあるならまだしも、相当遠くなるわけでありまして。交通費だけでも3万円程度になるなどという話もお聞きしました。保護者の経済的な負担も増高するということがあるわけでありまして。また、通学時間が長くなることから、例えば部活動に参加することが非常に難しくなる、あるいは冬期間は自宅通学が困難なことから、下宿せざるを得なくなるといった生徒が増えているということをお伺いさせていただきます。このため道教委は、昨年度から通学費助成制度を設けておりますけれども、支給の対象となる基準は、どのようになっているのか、また、現在、何人ぐらいの生徒が助成を受けており、その支給額はどのくらいになっているのかをお伺いさせていただきます。</p> <p>通学対策につきましては、重複した面もございますが、理解をさせていただきます。</p>	<p>(参事(改革推進))</p> <p>通学費等補助事業の実施状況についてでございますが、本補助事業は、募集停止に伴い、遠距離通学等となる生徒を対象にいたしまして、通学費や下宿費が月額13,000円を超える場合で、世帯の人数に応じて定めた所得基準額、3人世帯の場合は602万円としておりますが、これを下回る場合に、補助金を支給することとしており、下宿費の補助額については、その上限額を22,000円としているところでございます。</p> <p>この2年間、平成20年度に喜茂別高校他4校、21年度に浜益高校他3校の合計9校が募集停止となったところでございますが、これらの高校が所在する市町村の中学校を卒業し、通学区域内にある高校へ進学した生徒414名のうち、9月末現在で、61名から補助金の交付申請があったところでございます。</p> <p>このうち、補助要件として設定している所得基準額を超えていた1名を除く、60名に対しまして交付決定を行い、その内訳は、通学費補助が48名、下宿費補助が12名となっているところでございます。</p> <p>また、補助金の支給額につきましては、交付決定の時点で、一人当たりで見ると、年額で最高26万4千円、最低1万円、平均12万4千円となっておりますが、総額では750万円程度が見込まれるところでございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(改革推進)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(六) 地域との関わりについて 次に、それぞれの閉校になっていく、あるいは閉校となりつつある地域との関わりあいについてお伺いをさせていただきます。</p> <p>私の地元ではですね、空知管内の市町村、さきほど答弁にもございましたけれども、議員になってからですね、十数校がもう閉校されているわけでありまして、まさにもう勘弁して欲しいという気持ちでいっぱいでありまして、しかしながらですね、決してこれで終わりではないというわけではなく、今後も何か閉校が見込まれる学校があると言われていたわけでありまして、空知管内に限らず全道で、今日まで高校を守り続けてきた自治体では、職員を総動員して生徒募集に走り回る。あるいは生徒に対する先程来お話のありました通学費等の補助金を自治体そのものが措置をするなどして、地元の高校を存続させるために懸命な努力をしているわけでありまして、さらにはですね、閉校によって、地域に根ざしたさまざまな伝統のある文化活動や体育活動にも影響が及んでいるわけでありまして、地域の活性化が著しく損なわれるとともに、過疎化に一段と拍車をかける結果になっているわけでありまして、例えば、道教委の皆さんも御承知と思いますが、沼田町という町が私の選挙区にあるのですが、その一大イベントに観光資源ともなっております「夜高あんどん」というものが、もっともその最たるものだと思うわけでありまして、祭りのなかで大きな役割を担ってきたのが沼田高校なのであります。このイベントにつきましては、幼稚園から高校生までまさに小中高一体となって、それぞれが行灯をだしてこの祭りに華を添えているわけでありまして、残念ながら来年からこの学校は、閉校になるということで、チームとして参加することが不可能になって参りまして、まさに若い力がそこから欠如していくということで、この勇壮な行事が存続さえ、危ぶまれている状況にあるわけでありまして、こういう状況を道教委は、どう思われているのか是非ともお伺いしたいのであります。また、このような場合ですね、今後の在り方などについて、本当に親身になって相談に乗るなど、地域に対して温かい対応をしてきたのかどうか、併せてお聞かせを願います。</p> <p>(要望) ただ今、極めて聞く及ぶには、大変すばらしい答弁のように聞こえますが、一見その背後にはですね、また、次に同じようなケースがあれば、また議員がこの質問すると同じ答えが返ってくるのではないかという気がしてなりません。私は、この既にもう決定しているわけで質問しづらかったのでありますけれども、沼田における今までのその自治体、沼田町ですね、努力が非常に著しいものがあったというよりも、ここにも要請して参りました高校施設の改修ということになりますか、決定したものでありますから改修支援にかかる要望書が出てきておりますが、この前については、存続をしていただきたいという町全体の思い、地域全体の思いがですね、連日連夜にわたって、私ども会派を超えて、陳情に来てですね、それを我々は、真剣に捕まえて、お答えせざるを得ないわけでありまして、そこにはその無念さを感じるわけでありまして、つまり、あなたたち教育委員会はもんどり型の答弁をしていればそれで済むのでしょうかけれども、私ども議員は、よく言われるように地域の声をしっかりと聞いて、そして対応しなければならぬわけでありまして、ただ単に声を聞いてですね、そしてハイハイわかりましたということでは、事は済まないのではありませんけれども、とにもかくにもこれだけの学校がなくなっていくわけで、私どもはそのたびに前段申し上げましたように、ただ議員をやっていることが無念であるという空虚感を覚えながら毎回、残念無念で終わっているわけでごさいます、その心情を我々の心情をあなたたち教育委員会は、よく理解をしていただいて、今後同じようなケースがあれば対応をしていただかなければならないと思うわけでありまして。</p>	<p>(新しい高校づくり推進室長) 地域との関わりについてでございますが、それぞれの地域におきまして、地元の高校を支援するため、各種の取り組みが行われてきていることにつきまして、私どもとしても十分承知しております、改めてそうした取り組みに対しましては、大変ありがたいと思っております、ということを申し上げさせていただきます。</p> <p>高等学校はそれぞれの地域におきまして、生徒の進路希望、地域や生徒の実態などに対応して特色ある教育活動を行いますとともに、地域の方々にとりましても生涯学習の場や文化の発信の拠点として重要な役割を果たしております、ただいま、委員からお話のありました沼田高校におきまして、毎年、生徒達が力を合わせ、大きなあんどんを作成し、祭りに参加するなど、「夜高あんどん祭り」の一翼を担って来たと、生徒達の地域への貢献やまた生徒に対します教育的効果、これは大きなものであったと認識しているところでございます。</p> <p>このような中、学校の存続への地元の思い、こういったものは受け止めつつも、中卒者数が減少し、今後とも生徒数の増加が見込まれない場合など、子どもたちに対してまして、一定の教育水準を維持するための再編を検討せざるを得ないということでごさいます、そういった場合におきましても、事前に地元市町村に対しまして、十分な説明を行い、ご意見を伺いしますとともに、計画決定後におきましても、在校生の教育環境の充実や校舎の利活用などにつきまして、地元市町村とも相談のうえで対応してきているところであります、今後ともしっかりと対応して参りたいと考えております。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(七) 地域経済との関わりについて  そこで地域経済との関わりについて、お伺いをして参りたいと考えております。  閉校によりましてですね、地域の経済にもいろいろな影響が出て来るわけであります。実はですね、私の友人がですね学校の近くでコンビニやってたんですよ。もちろんその生徒、在校生が一番のお得意さんなわけなんですけれども、学校が無くなったために、全く商売にならなくなっちゃって、まあ年齢が年齢でもありましたし、まあやめてもいいという気持ちがあったかどうかはわかりませんが、ついにですね店を閉じてしまいました。そういう実例があります。  そしてまた、町の学校にかかわる特に高校ですが運動具店、それから文房具店はもちろんですが、売り上げも大幅に減少してきているんですね。そういうさまざまな実態があることを、道教委の皆さんは御存知なんでしょうか。  閉校に伴う地域経済への影響について、どのように認識を持っていたのか、また、このような実態をどのように受け止めているのかお伺いをいたします。</p> <p>(指摘)  私は答弁する人が違うんじゃないかと思うのですな。新しい高校づくり推進室長なんてという肩書きの人がですね、地域経済の影響をどう思うか、新しい高校づくり、まさに作ることにについての答えを出す方が、今、岸さんかな答弁してもらったんだけど、これはですね、やっぱりその経済部長をやった教育長がだんだん答弁すべきでないかと私は思ったな。どうなんですか。今日は答弁してもらえないような態度だけだな。これは打ち合わせ以外のことだけちょっと聞いてくれやおい。お願いしますよ。</p> <p>(指摘)  経済部長をやった教育長ですから、よく北海道の隅々180市町村、179か、昨日合併したもんな。そういう自治体をよく承知の上での答弁だと理解をいたします。  それでね、さきほどの答弁の中で、「少なからず影響を与えるものと思う。」と言う程度のそんな生ぬるい認識なのですかね。さきほどの沼田高校の夜高あんどんにしてもそうなんですよ。地域にとってはどれだけ大変なことなのか、まるで深刻さがないような答弁であったように思われます。  道教委の皆さんには、実際には高校がなくなった町村に行って活気を失った町の実際の状況を様子を見たことがありますか。今申し上げたコンビニをたたんだ人から話を聞いたことがありますか。地域の人から聞いたら馬鹿にするくらいじゃ済まないんですよ。私はどうしても閉校するなら、事前にですね地域の経済への与える影響くらいは、当該市町村とその調査をすべきをだと思っておりますが、地域振興条例ができたのですから、こういった地域のために何ができるのか、教育長は真剣にですね、知事と直接談判するくらいことはやるべきであると強く申し上げておきます。</p>	<p>(新しい高校づくり推進室長)  地域経済との関わりについてということですが、地域から学校がなくなるということは、生徒や保護者の方々はもとより、町や地域の方々、地域経済などに対しまして、少なからず影響を与えることになるといった認識を持っているところでございます。  しかしながら、一方で中卒者数が急激に減少する中にありまして、教育水準を維持向上し、充実した教育を提供するなど子どもたちの教育環境を考えますと、一定の学校規模を維持のための再編、これもまた避けて通れない重要な課題であると考えているところでございまして、地元市町村にとりましては、大変厳しいものとはなりますが、そのような考え方のもと、再編を進めさせていただいているところでございます。</p> <p>(教育長)  ご指摘を受けまして大変恐縮でございますけれども、高校がなくなるということと、そのことによる地域経済との関わり、影響と言うことでございますが、私としましてはやっぱり学校がなくなるということはその地域において、生徒や保護者の方々はもとより、町や地元の方、あるいは地域経済などに対しまして、直接間接も含めて少なからず影響を与えるということは十分認識しているところでございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(八) 今後の再編対象校について 次に、今後の再編対象校についてお伺いをしたいと思います。</p> <p>中学校卒業生数の状況を踏まえまして、学科配置状況や規模の適正化を図るために、今日まで何度となく配置計画が策定されてきているのであります。私もこの質問をするに当たり、一読させていただいたんですが、2冊に渡って確かあったと思ったな。これがそうなんですね。公立高校配置計画、内容を読むと類似しているような点が随分多かったんだけど、この計画を見ましてもですね、率直に申し上げて、地域の実情を十分にわきまえたものとは思えないのであります。生徒が減るからと言って単にただ指針に基づいて、地域の事情を考えずに機械的に統合を進めるという方法は、私は極めて乱暴であると言わざるを得ないと私は思っております。</p> <p>道教委の指針に沿って、1学年3学級以下の高校を再編整備するという基準を適用した場合、今後再編の対象となる高校は何校ぐらい見込まれるのかお伺い致します。</p> <p>(何校って言ってないな)</p>	<p>(新しい高校づくり推進室長) 1学年3学級以下の学校数ということで、申し上げますと、平成24年度におきましては、84校ということになります。『新たな高校教育に関する指針』におきましては、これらを一律に再編をするということではなく、1学年2学級以下の高校については、通学区域における中卒者数の状況、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率、こういったことなどを総合的に勘案するとともに、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元進学率が高い場合は、地域キャンパス校とするなど地域の実情等にも十分踏まえながら具体的な検討を進めることとしているところでございます。</p> <p>(新しい高校づくり推進室長) 1学年3学級以下の学校数ということで申し上げますと84校でございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>
<p>(九) 計画の見直しについて それでは次にですね、計画の見直しについて、伺って参ります。</p> <p>今聞きましたように平成24年度にはですね、84校が再編整備の対象となるということでもありますけれども、それでは誠に不親切と言わざるを得ないのであります。つまり、今年の計画書のどこを見ましてもですね、そんな数字は書いてない。何のことはない、各学校ごとに細かく示してあるので、それを拾っていったら、ちゃんと84校になるということでもあります。これでは、都合の悪いことは目に付かないように、分かりづらくしていると批判されますよ。次回の資料から、分かり易いものにするよう、求めておきます。</p> <p>さて、ここまで、地元の高校が廃校となることによりまして、地域にさまざまな形での影響が及ぶことや、また、本当に地域の理解が得られた配置計画とはなっていないこと等を申し上げて参りました。</p> <p>私は、これらのことから、地域の実態を十分に勘案しながら再検討を行うべきであり、この上でこの計画を見直す必要があるのではないかと考えますがいかがでしょうか。教育長の見解を求めます。</p> <p>(指摘) 適切に対応して参りますという答弁は幾度となくお聞きしているわけでありまして、まさに先ほどから申し上げているこの2冊、平成21年度から23年度、22年度から24年度にわたるこの計画案、この質問に当たり、随分熟読をさせていただいたつもりでありますけれども、この答弁ではとにかく地域の要望は、確かに確実に直接行って聞いて参りましたということではありますけれども、先ほど来申し上げているように、我々が聞いた話すとですね、あなたたちがまとめた話とだいぶ違うんで、後ほど相談をしなければならんことがたくさんありますので、これは質問になりませんから、言うておきます。</p>	<p>(教育長) 計画の見直しということではありますが、この度の配置計画では、『新たな指針』の考え方に基きまして、平成22年度から24年度まで3年間の具体的な計画とその後4年間の見直しをお示ししているところでございまして、その検討に当たりましては、議会でのご議論はもとより、2回にわたる地域別検討協議会でのご意見、さらには、直接、地域などへ出向いていただいたご意見や、地域事情などを総合的に勘案して策定させていただいたものでございます。</p> <p>『新たな指針』におきましては、配置計画自体、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向などに大きな変化が生じた場合などには、必要に応じて、計画の変更を行うこととしているものでございまして、今後とも、この『指針』の考え方に基き、地域のご意見を伺いながら、対応して参りたいと考えているところでございます。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(十) 新しいタイプの学校の成果について  それでは、先ほどの北口委員の質問と重複いたしますが、新しいタイプの学校の成果についてお伺いしたいと思います。平成元年には、中学校卒業者がおよそ9万2千人在籍したものが、少子化の影響で年々卒業者の減少が著しくなってきました。このため道教委が、子どもの教育機会を確保することや教育水準の維持向上などを図るために、小規模校に対しまして、特色を活かした学校づくりを積極的に奨励してきたことは、私も認めるものであります。  総合学科や単位制、フィールド制など新しいタイプの学科が、次々と導入されているところでありますけれども、その効果はどんな形になって現れているのか、お聞かせ願います。</p> <p>これから、まだまだ新しい成果については出てくることを期待しながら、この質問については終わります。</p>	<p>(参事(改革推進))  新しいタイプの学校の成果についてでございますが、総合学科は、平成9年度以降、公立12校で設置しており、設置校からは、  ・総合学科の必修科目である「産業社会と人間」を通した適切なガイダンスにより勤労観、職業観が育成され、将来を見通した進路選択ができるようになったこと  ・導入前と比較して、大学進学率や就職決定率が上昇し、中途退学率が減少したこと  などが報告されているところでございます。  また、全日制の普通科単位制につきましては、平成16年度以降、公立13校で導入しており、導入校からは、  ・生徒の主体的な科目選択、少人数指導や習熟度別指導、さらには高大連携の実施などにより、学習に意欲的に取り組む生徒が増加したこと  ・導入前と比較して、大学進学率や就職決定率などの進路実績が向上したこと  などが報告されているところでございます。  なお、フィールド制につきましては平成20年度から導入したところでございますので、今後、導入校における成果や課題等につきまして分析して参りたいと考えております。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(改革推進)</p>
<p>(十一-2) ユニークな学科について  次に、ユニークな学科について、お伺いをして参りたいと思います。つい最近でしたか、9月23日に「高校生夢一直線」ということで、上下にわたって北海道新聞に掲載されておりましたけれども、全国でただ1校サブラッドを生産している静内農業高校、特色のある学校としてこの記事に紹介されております。さらにまた、村立では、音威子府高校の工芸科が有名であると聞いておりますけれども、私は、単位制などのほかに、このようなユニークな学科を生徒の減少が著しい地方に開設してどうかと考えます。たとえば、これはアイディアの一つでありますけれども、江差高校に江差追分学科をつくるとか、ちょっと飛びすぎたような話で申し訳ないのですが、あそこには近江八声さんとか木村香澄さんなどという有名な、いわゆる名人と称せられる人たちに教えてもらうことができると思うんです。そうしますと、江差では是非民謡の真髄を勉強したいというような子どもたちが、全国とは言わず集まってくる可能性が、私はあると思いますが、そんな発想がこれからは必要だと思っております、見解を伺います。</p>	<p>(新しい高校づくり推進室長)  特色ある学科についてでございますが、学科の設置に関しましては、社会情勢や産業構造の変化、さらには、生徒の学習ニーズの多様化などに応じまして、これらの変化に対応した学科の設置や総合学科への転換などにより、特色づくりに努めてきているところでございます。  委員からお話しのありました学科以外にも例を挙げますと、調理師資格が取得できるコースを設定した厚岸翔洋高校の海洋資源科ですとか、あるいは介護福祉士資格の取得を目指す置戸高校の福祉科なども設置してきているところでございますが、こうした学科の設置に当たりましては、専門の教員を確保するという観点などからも一定の学校規模が必要であると考えているところでございます。  また、多くの学校におきましては、学科の中に、進学や就職、芸術や保育といったコースなどを設定したり、あるいは、学校が独自に目標や内容等を定める学校設定科目といたしまして、上川高校では「大雪基礎」といった科目や、池田高校は「十勝学」といった地域の特色を学ぶ科目を開設するなど、教育課程の編成・実施に工夫や改善を図りながら地域の産業や文化などに関する特色ある教育活動に取り組んでいるところでございます。  今後とも、こうした取組により、生徒のニーズや時代の変化に対応した魅力ある学校づくりに努めて参りたいと考えております。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(改革推進)</p>
<p>(再質問)  私が申し上げた以外にも、今、答弁の内容を見ますと、かなりユニークな学科があるということを再認識させていただいたわけですが、新聞を見ましても、それぞれ、都市型の学校であれば、例えば琴似工業高校であれば、コンピュータ部がエコカーを製造しているなど、それぞれ創意工夫がされているわけですが、これは、道教委の指導で、こういった、美唄高校ではファッションショーをするために生活デザイン科があったり、統合されるために道教委が指導して学科が新設されるのでしょうか。</p>	<p>(新しい高校づくり推進室長)  学科の設置についてのお尋ねでありますけれども、ただいま御質問のありましたような学科につきましては、再編等に際しまして地元からのご意見、あるいは学校間での協議等によりまして、地域あるいは学校に合った特色ある学科を設置するとの要望が出て参りまして、それをもとにこちらで決定しているところでございます。</p>	

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(指摘・要望)  それぞれの学校が地域と関わり合いを持ちながら、設立したのかどうかを質問するわけではございませんが、先ほど質問の中で申し上げましたように、過疎地にある学校が閉校されることは、先程来何べんも申し上げているのですが、例えば学科を変更してどうしても存続させたいというような希望が、我々のところに、ずいぶん今日まであったのですが、そういった際に道教委が指導していたかどうかは別なのですが、たとえば恵庭南高校が、恵庭市そのものが陸上部にずいぶん、陸上に興味があるのかどうかはわかりませんが、恵庭南高、北高ですか、ずいぶんと陸上の高校インターハイにも出て、先般も優勝しているなど、非常にスポーツ学科が進んでいるんですね。こういった学科を、グラウンドがなければ当然スポーツ学科というものは構成されないわけですが、いままで私が考えてみるに、閉校になってきた高校のグラウンドは、陸連で公認もできるぐらいのグラウンドを所有した学校があったんですね。そういった学校、つまり過疎地にそういった学校があるのであれば、恵庭南高校に倣えとは言いませんけれど、何も陸上だけがスポーツだとは言わないわけで、その他ユニークなスポーツはいろいろあるわけなんです。ですから、これからは、幅広く、求められるものとは別に、その地域に合った学科を是非指導してやってほしいと思います。</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(十一) 閉校後の校舎の使用状況と今後の対策について</p> <p>次に閉校後の校舎の使用状況と今後の対策についてお伺いをさせていただきます。</p> <p>統廃合のしわ寄せが、常に過疎地に向けられていることは先程申し上げて来ているわけですが、最近では、道教委が一旦示した学級減が取り消されたケースは、天塩町が通学費を補助することになりました、あるいは通学生が増加が見込まれるとして、天塩高校の1学級が減になったこと、あるいは、中学校の卒業生が増加するなどとなりまして、芦別高校及び檜山北高校が1学級、それぞれ復活した程度ですが、地元の要望を受けた結果とは言え、かつて道が市町村立高校の道立移管を受け入れることとした際に、ですね、それぞれの自治体が土地の無償提供や、職員宿舍の建築などを行ったことを、道教委はどのように考えるのでしょうか。よもや忘れたとは言わせませんよ。</p> <p>そこで具体的な事例についてお尋ね致しますが、まず三笠高校の場合についてであります。三笠高校の募集停止を受けまして、近く三笠市から道教委に対して、市立学校への移管要請が行われる方向であると承知しております。三笠市長はですね、ご承知のように教員や教育長を経験された、教育行政には優れた見識をお持ちの方でございます。既に国の構造改革特区を活用した小中一貫教育を実施するなど、先駆的な取組を行っているのです。三笠高校は、特色ある高校づくりのために市民一丸となって、食と観光に特化した高校づくりに貢献しようと努力してきたのでありますけれども、残念ながら道教委に受け入れられなかったためにですね、市立学校に移管しその実現を図ろうと、改めて市民挙げて運動を展開しているところであります。そこで伺いをいたしますが、道教委として今後どのように支援をしていく考えか、お聞かせを願いたい。</p> <p>また、先ほど申し上げた沼田高校についてでありますけれども、沼田町は、高校の校舎を活用いたしまして、すでに中学校を移転させることを決定しており、校舎の整備方針をとりまとめていると仄聞するところでもありますけれども、沼田町に対する今後の支援の考え方についても、併せて伺いをさせていただきます。</p> <p>(再質問)</p> <p>三笠高校の市への移管につきましては、地元の要望に沿って対応すべきであり、設置する学科につきましても、地元の考えが活かされるべきであると考えますが、見解を伺います。</p> <p>(よろしくどうぞお願い申し上げます。)</p>	<p>(教育次長)</p> <p>閉校後の校舎などについてでございますけれども、まずさきほど委員からご指摘のありましたかつての道が市町村立高校から道立移管を受ける際に、それぞれの自治体が土地の無償提供ですとか職員宿舍を造っていただいたとか、そういったことがありましたということでございます。それらにつきましては、北海道の高校振興にとりまして、大変大きな貢献をしていただいたと感謝しております。</p> <p>それで、次の質問の方の閉校後の校舎などについてでございますけれども、三笠高校に関しましては、現在、三笠市において、市立移管の検討を進めており、10月からは担当の職員を配置して、具体的な内容の検討を進めるとお聞きしております。</p> <p>道立学校の市町村への移管につきましては、「新たな指針」においても、地元市町村から高校を核とした地域振興や特色ある学校づくりを進めるため、市町村立高校として設置の要望がある場合は、当該市町村と移管について協議を行うこととしているところでございまして、近々、三笠市から正式な要望の予定がありますことから、要望の内容を十分お伺いし、道教委として具体的な検討を進めて参ります。また、平成22年3月に閉校となります沼田高校につきましては、沼田町から施設を中学校として活用する意向が示されておりました。継続して使用するために、施設の改修の要望をいただいているところでございます。</p> <p>道教委といたしましては、今後、中学校として有効な活用が図られますよう要望にありますライフラインの点検補修ですとか建物の機能回復を図るための補修など、町と十分に協議しながら、必要な支援に努めて参りたいと考えております。</p> <p>(教育次長)</p> <p>市への移管などについてでございますが、「新たな指針」におきましても、市町村立高校として設置の要望がある場合は、当該市町村と移管について協議を行うとしていただいております。具体的な話が出てきましたのは、今回が初めてということもあり、近々、三笠市から正式な要望の予定があることから、学科転換なども含めまして、市のご意向を十分お聞きし、道教委として具体的な検討を行うなど、しっかりと対応して参りたいと考えております。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(高校配置)・(施設課)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(十二) 夢のある教育行政について 最後に、教育長にお伺いをいたします。少子高齢化・国際化・情報化などがスピーディーに進行しておりますが、人気の高い高校に生徒が集中して、受験競争が一段と激しくなることや、統合によって募集枠が狭まれば生徒の選択の幅も限定されることは明らかであります。また高校が無くなる地域の住民の方々には、自分の家の表札が外されたにも等しい、何とも言えないやり切れない思いと、ノスタルジーだけが残るのであります。教育は国家百年の大計と言われております。その成果は商業経済行為などと違いまして、数値で表れるものではありません。私は、将来を担う子どもたちに対する未来への投資を誤らないようにすべきであるという考え方から、道教委には、本道の高校教育が夢のある、たくましいものとなるような教育行政を期待するものであります。 最後に教育長の夢を伺って、私の質問を終わります。</p>	<p>(教育長) 本道における教育行政についてでございますが、高校教育には、生徒一人一人に、将来の夢や希望を叶えるために必要な資質や能力をしっかり身に付けさせ、未来を切り拓くことができる人材を育成することが求められているところでございます。 私は、この4月から初めて教育行政に携わらせていただいたところでございますが、私が高校生でありました昭和40年頃に比べますと、高校進学率は当時の約66%から現在では98%を超えており、その反面、少子化の進展などにより、中学校卒業生数は当時の約14万人から現在では約5万人となっているなど、本道の高校教育を取り巻く環境が大きく変わっていると実感しているところでございます。 また、この半年間に機会を捉えまして、普通科、農業科、工業科などの高校を訪問させていただきましたけれども、そこでは、大きな可能性に満ちあふれた子どもたちが生き生きと活動している様子や努力している姿を見まして、そうした子どもたちの成長を支える教育環境の整備に努めていかなければならないという気持ちを強く持ったところでございます。 私としましては、本道の高校におきまして、ふるさと北海道を愛し、将来の本道や地域の発展に貢献できる人材を育てることが大切であると考えており、さらに、高い志を抱いて、国内はもとより、世界へと羽ばたき活躍できる人材を輩出することを期待しているところでございます。 そうしたことが実現できるよう、今後とも、地域の方々のご理解とご協力をいただきながら、一体となって高校教育の充実・発展に努めて参りたいと考えております。</p>	<p>新しい高校づくり推進室参事(改革推進)</p>